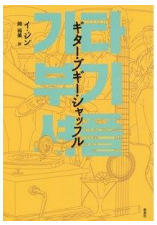
書評『ギター・ブギ・シャッフル』

山根 俊郎



ギター･ブギー･シャッフル（韓国文学セレクション）（日本語）単行本 － 2020/3/26 イ･ジン（李 眞）(著), 岡 裕美（翻訳） 定価 2000 円＋税

この本は 1962、3 年頃、ソウルの龍山（ヨンサン）にあった在韓米軍基地キャンプ・ギャリソンでのクラブステージ「米八軍舞台」で活躍した若きミュージシャンたちの青春を描いた小説です。

主人公キム･ヒョンは 1941 年に日帝時代に満州国の首都・新京〔現在の長春〕で一人息子として生まれます。大きな製粉工場を経営していた金持ちの父は、解放を迎えると趣味で収集したクラシックレコード盤を背負って故郷の咸興（ハムフン）に引き上げました。翌年、ソウルで製粉工場を作り成功します。

ヒョンが小学校に上がるとバイオリンを習わされます。父は、ジャズに心酔して、彼もアメリカンポップスに興味を持ちます。

しかし、６・２５（朝鮮戦争）で彼の運命は大きく変化します。避難先の釜山から父は、ソウルの工場が気になるので様子を見に行き、行方不明になります。母は結核を患い、ヒョンをソウルの夫の弟に送った後、亡くなります。

天涯孤独になったヒョンは、叔父の家庭では邪魔者扱いされて叔母から虐められます。

昔に父が弟の叔父に買ってやった製粉工場の窮屈な社員寮にヒョンは、住み働かされます。

彼のささやかな楽しみは、深夜に鉱石ラジオで聴くＡＦＫＮ(**A**merican **F**orces **K**orean **N**etwork 駐韓米軍ネットワーク)の音楽でした。

そして、休日には鐘路（チョンノ）の裏通りにある音楽茶房「ニューワールド」で食費を抜いた 20 ファンを支払い、ジュース 1 杯でアメリカンポップスのレコードを聴いて過ごしました。

1962 年のある日、突然、叔父が寮を賃貸で貸すため 20 歳のヒョンは同僚たちと追い出されます。叔父から貰ったわずかのお金を持って、ヒョンは「ニューワールド」に行きます。

そこで昔、叔父の工場で働いていたウギに出会います。ウギから米軍専用クラブでバンドの楽器と舞台照明を運ぶヘルパーの仕事に誘われます。

そこからヒョンは、ギターリストになり米八軍舞台のステージに立つようになるのです。

読後感

1950 年代後半、米八軍舞台が最も盛んな時期には米軍クラブは 264 ケ所もあり、出演者たちが年間約 120 万ドルという莫大な外貨を獲得した、と言われています。

出演者は、６ケ月ごとにアメリカから審査員が来てオーディションを受けて、ＡＡ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄのライセンスを貰いギャラも決まる。よって、最新曲も猛練習しなければならない。

この本は、そのようなミュージシャンの生態をリアルに詳しく描いています。

例えば、彼らはソルロンタンを食べてトラックに乗って基地に行き、公演が終われば高級な中華料理を食べてマッコリや高粱酒を飲む。アヘンや麻薬に手を出して身を持ち崩す人も多かった。

この本は、2017 年に第５回秀林（スリム）文学賞を受賞して、出版されたが、審査員の一人は「実際に米八軍舞台で働いた 60～70 代の方の経験談」を推測したが、作者の李眞（イ・ジン）が 30 代の女性であり、資料調査だけでこの作品を書いたことに驚いたそうです。

登場人物の天才ギターリスト「ビッグ・チェ」ことチェ・ジンは韓国ロックの代父申重鉉（シン・ジュンヒョン/1938～）をモデルにしている。

マドンナの歌手キキ・キムは、尹福姫（ユン・ボッキー/1946～）とパティ・キム（1938～本名：金惠子。パティ・ペイジにあやかってパティを名乗った）を合わせています。(訳者あとがきＰ250)

翻訳した岡裕美さんは、著者に何度も会い、適切な日本語に訳されています。著者の承諾を得て「参考文献」を掲げているのも韓国大衆音楽を研究する私にはとてもありがたいです。

（1960 年代中盤）ベトナム戦争を機に在韓米軍の規模が減少したため米八軍芸能界は急速に没落した。人気歌手は有名作曲家とともにヒット曲を生んでテレビ時代に適応した。（Ｐ234）

最後には、登場人物のその後の人生が書かれていて興味深い。

（終わり）